

2023年度I期 グループ企画

番号	氏名	渡航先	国・地域	渡航先での受入期間
1	K・K			
2	I・Y	メータオクリニック JICA	タイ	2023/8/23~8/25
3	O・T			

令和5年度岸本国際交流奨学金による海外活動実施報告書

医学部医学科	4年	学籍番号：*****	氏名：K・K
渡航先国：タイ王国			
受入機関名：JICA タイ事務所（タイ保健省）、メータオ・クリニック			
渡航先機関での受入期間： 令和 5年 8月 22日～令和 5年 8月 25日（4日間）			

① 目的およびスケジュール

年 月 日	発 着 地 名 (国 名)	訪 問 機 関 名	目 的
8/22	大阪発 スワンナプーム着 (タイ)		
8/23		JICA (タイ保健省)	JICA がタイ保健省を本部に実施している ARCH プロジェクトを見学し、災害医療・国際医療の知見を深める。
8/24	ドンムアン発 メーソート着	メータオ・クリニック	タイとミャンマーの国境に位置する当病院にて、途上国での医療支援活動の現場を学び、難民問題・医療慈善活動に対する知見を深める。
8/25	メーソート発 ドンムアン着		自由行動、レポート作成
8/26	スワンナプーム発 大阪着		

医学科 4 年次のカリキュラムである環境医学・公衆衛生学実習において、私は「国際保健」教室に配属となり、研究のフィールドワークの一環としてタイにおける公衆衛生の実態を学びに行った。

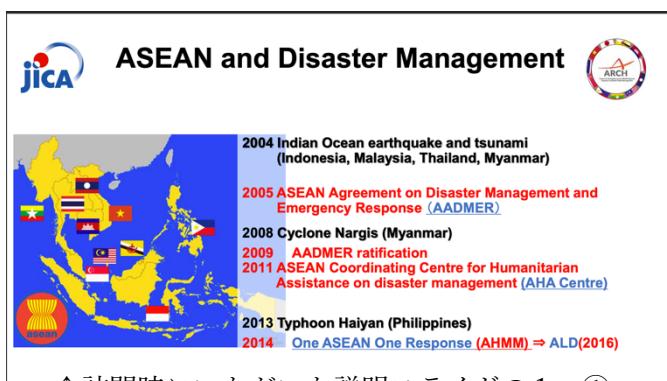
最大の目的は「医療分野における国際協力」の実態を学ぶことだが、今回の海外活動では「災害医療」「難民医療」の 2 つの分野に焦点を当て、これまでの実績や現状、今後の課題について学ばせていただいた。

② 活動報告

1, JICA (タイ保健省) 訪問 (8/23)

ここでは「災害医療」についての実態を学ぶため、JICA がタイ保健省を本部に展開している ASEAN 災害医療連携強化プロジェクト (ARCH プロジェクト) に参加・見学さ

せていただき、タイを中心とした ASEAN 諸国や日本の災害医療に対する国際的な取り組みを過去の実績から現状、今後の課題まで詳細に説明していただいた。また、タイの医療の歴史やタイ保健省の仕組み、施設の紹介などもしてくださいました。



↑訪問時にいただいた説明スライドの1つ①

災害大国である ASEAN 諸国はこれまで、甚大な災害が発生するごとに大きな取り決めがなされ、災害に向けた国際的な取り組みが強化されてきた。しかし、ASEAN 諸国の災害医療に関する理解や実施能力、支援体制には大きな格差が存在していたため、その仕組みづくりとしてタイ政府

が連携強化に資する技術協力を要請したこと、このプロジェクトは開始された。

現在では基本的な枠組み・仕組み作りについてはある程度完了し、ARCH プロジェクトは「相互学習」「知識共創」を目的としたフェーズ2に移行していた。

ARCH2の重要基本戦略

相互学習 Mutual Learning
知識共創 Knowledge Co-Creation

「自らに降りかかる大規模災害は忘れたころにやってくる。故に自国のみならず、世界のどこかで起きた大規模災害の経験と災害対応の知識を日本とASEAN、さらにグローバルに共有し、次にどこかで起きた大規模災害に備える」

↑訪問時にいただいた説明スライドの1つ②

あり、それを知れたのはとても大きなことであった。また、今後必ず訪れると言われている南海トラフが発生した際に、ASEAN から支援のコネを作る、という別の目的があると教えていただき、将来の不足の事態に向けて、様々な下準備が行われていることも知ることができた。

JICA と聞くと、途上国に向けた支援が目的であるイメージを抱いていた自分にとって、これはかなり驚きであった。多くの国が発展をとげつつある現在、日本はもはや医療先進国として技術を教える立場のみではない。ともに知識を共有しながら学習をしていくという姿勢は本来あるべき姿で



←タイ保健省（左）と ARCH プロジェクト本部（右）の写真

その他について感じたことは、まずタイ保健省の敷地が日本の厚生労働省とは比べ物にならないほど広かった。昔のタイ国王に医療関係者がいたこともあり、国全体として医療分野に力を入れていることがよくわかった。また、敷地内にあるフードコートは、東南アジアらしさを存分に味わえる雰囲気であり、値段も安く美味しかった。おしゃれなカフェもあり、JICA職員のご厚意でマンゴースムージを奢っていただき、大満足な時間を過ごせた。

2. メータオ・クリニック訪問 (8/24)



ここでは「難民医療」についての実態を学ぶため、タイとミャンマーの国境付近に位置するメータオ・クリニックを訪問させていただき、施設や周辺地域の見学や、病院に勤める職員や委員長との面談を行った。この病院はミャンマーからの移民に医療を提供するために開院され、開院から現在まで患者に原則無償で医療を提供している。不法移民については、タイ国内で正規の医療を受けられないということから、移民に向けた独自の保

険 (M-FUND) を提供したり、子供のための学校を建設したりなど、ミャンマーからの移民のために幅広い取り組みを行っている病院だ。そのため、タイ政府から公認を得て病院を運営しているわけではない。中には、医師や看護師の資格を有していないが、医療に従事しているスタッフもあり、この辺りは途上国における医療の問題を窺うことができた。

施設周辺には特に子供や妊婦の方が多く、またミャンマーでは紛争もあるため、外傷のひどい人も見受けられた。最初は「メータオ・クリニック支援の会」の有高さんに、メータオ・

クリニックの歴史や近年の事情をスライドで説明していただけ、その後に各施設の紹介をしてくださった。無償で運営している病院のため、当然大学病院のような施設が揃っているわけもなく、施設内はエアコンなしで基本は窓や扉が開放で、あるとしても扇風機のみ、精密検査は簡単なエコーが1台あるだけで、手術台も1台のみであった。ただ、道具の消毒や紙カルテの管理などはしっかりと行われているなど、病院としての運営はとても整備されており感動した

その後は昼食をとり、他の NGO の団体が 2 組



合流し、メータオ・クリニックの創業者であり医院長であるシンシア・マウン先生との面談を行った。先生は2002年にアジアのノーベル賞といわれる「マグサイサイ賞」を受賞されており、2003年には米『TIME』誌の「アジアの英雄」に選出されるなどの歴をもつ方で、これまでの経験や今の病院の状況、ミャンマーの今後について、生の声で届けてくださった。

最後にシンシア先生も含めた皆で集合写真を撮り、終了となった。



③ 実習を通して

今回のタイ渡航は①で先述の通り、「医療分野における国際協力」を目的にフィールドワークを行ったのだが、特にJICAでの「災害医療」についての取り組み・考え方には大きな影響を受けた。「災害医療」はまだ歴史の浅い分野であり、蓄積・統合された知識が非常に少ない。また、災害が多いとはいえ、十分なデータが取れるほどの頻度ではない。また、「喉元過ぎれば熱さを忘れる」ということもあり、なかなか発展しにくい分野である。しかし、日本においては「南海トラフ」が必ず訪れるといわれる現状、避けて通ることはできない分野であると感じた。

そこで、環境医学・公衆衛生学実習の「国際保健」教室では、「災害医療」に関する問題点をこれから考察し、研究を進めていくことにした。詳しい内容についてはまだ未定であるが、

有意義な内容になることを確信している。

④ 最後に

最後になりましたが、この度は岸本国際交流奨学金の援助によりタイ訪問を実現していただき、ありがとうございました。この経験を今後の医師人生、あるいはキャリアの選択に活かせていくたいと思います。また、公衆衛生実習において、常にサポートしてくださった近畿大学の安田直史先生、および、タイにて受け入れをしてくださった方々に感謝しております。本当にありがとうございました。

令和5年度岸本国際交流奨学金による海外活動実施報告書

医学部医学科	4年	学籍番号 : *****	氏名 : I・Y
渡航先国 : タイ王国			
受入機関名 : JICA タイ事務所 (タイ保健省), メータオクリニック			
渡航先機関での受入期間 : 令和 5年 8月 22日 ~ 令和 5年 8月 25日 (4日間)			

＜海外活動中の日ごとのスケジュール一覧＞

8月22日 日本出発 スワンナプーム空港到着しアソークを観光
8月23日 JICA タイ事務局の話を聞きにタイの保健省を訪問
8月24日 メータオクリニックを訪問
午前中はクリニックの散策、午後はクリニックの院長の話を聞き、インタビューを行いました。
8月25日 バンコクの観光、スワンナプーム空港出発

＜活動の目的＞

- ・国際保健がテーマなので、タイの保健の仕組みについて JICA タイ事務局の方から直接話を聞き、質疑応答を行い、理解を深めるため。
- ・医療が全然整っていない場所の現状を自分の目で見て体験するため。
- ・ミャンマーの難民の現状について話を聞き、理解を深めるため。

＜活動の内容＞

・JICAについて

タイの保健省に伺い、JICAの方から直接、タイの保健についての話を聞くことができました。主に、災害保健について学ぶことができました。質疑応答の後、保健省と一緒に回り、案内をしてもらいました。

・メータオクリニックについて

午前中はメータオクリニック支援の会である有高様からメータオクリニックの歴史、ミャンマー難民の話を聞くことができました。その後、クリニックを回り案内を受けました。ミャンマー難民の患者の現状をこの目で見たり、患者のカルテをみせてもらったり、クリニックの医療体制を体験することができま

した。メータオクリニックの食堂も体験することができました。

午後は、他のMP0法人の方々と共にメータオクリニック院長の話を聞くことができました。偉大な方の人生やメータオクリニック創設の話を聞けて、自分の人生を改めて考え直すきっかけになりました。

＜活動の成果＞

タイの保健省にて、JICAの方から直接、タイの災害保健について理解を深めることができました。特に印象に残ったことは、今までで一番被害が大きい2011年に起きたタイ洪水の時の体制についてです。タイの災害が起きた時の体制に感銘を受け、日本に戻ってから日本の体制と比べると、大きく異なることにとても驚きました。災害医療にとても興味をもつことができたため、今回の公衆衛生の研究発表のテーマを災害医療に選ばせていただきました。

メータオクリニックの歴史やミャンマー難民の現状を聞くことができ、世界にはまだこんなにも生活が苦しく、医療もまともに受けられない人々がいるのかと改めて痛感させられました。メータオクリニックの近くでは、紛争が起きており、今でも時々銃声が聞こえることがあるらしいです。一刻も早く解決に導く必要があります。また、メータオクリニックの現状をこの目で見て体験することによって、途上国の医療の現状を少し理解することができました。普通に生活しているだけで衛生が悪いこと、それに加えて衛生面に関する知識さえないこと。また、お金や人材が足りないせいで患者の看病がナースではなく、患者の家族がしなければならないような状況でした。今回の実習で一番驚きました。患者のベッドが、下が柔らかい毛布やタオルケットではなく、シートですらなく、ただの木の板で患者が横になっており、そこまでお金が足りていない状況なんだな、と感じさせられました。また、今まで途上国の医療体制や病院に関してあまり良くない印象がありましたが、メータオクリニックの現状を見て、有高様のように他国から現地にきてまで支援していたり、他の国から支援を受けてクリニックが成り立っていたり、少ない資金で最低限の医療体制を整えていることにも感銘を受け、印象が180度変わりました。

日本ではまず体験できないようなことがたくさんあり、本当に刺激的な実習でした。

＜今後の抱負＞

医者の卵である医学生のうちに日本以外の海外の様々な医療体制や病院の現状を直接体験していきたいです。自分にはもっと学習して考えるべきことがたくさんと痛感しました。これから病院実習においても同様に真剣に取り組んでいきたいと改めて感じました。

最後に、今回の実習は岸本国際奨学金の援助により成立しました。このような大変貴重な体験をする機会をいただき、感謝申し上げます。これからも勉学に励み、立派な医者になれるように精進してまいります。

令和5年度岸本国際交流奨学金による海外活動実施報告書

医学部医学科	4年	学籍番号 : *****	氏名 : O・T
渡航先国 : タイ王国			
受入機関名 : JICA タイ事務所 (タイ保健省), メータオクリニック			
渡航先機関での受入期間 : 令和 5年 8月 23日 ~ 令和 5年 8月 24日 (2日間)			

活動の目的

ASEAN 災害保険医療管理に係る地域能力強化プロジェクトおよびメータオクリニックを通じて、タイ王国自体、タイ王国に住む難民の保険医療を見る。

今回のスケジュール

- ① 8/23 ARCH@タイ保健省
- ② 8/24 メータオクリニックの見学

- ① タイ保健省はとても広大でありそのうちの Devision of Public Health Emergency 内の Permanent Secretary Office ビルに訪問することになった。そこでは ARCH の達成事項や課題について学んだ。ARCH の発端は 2004 年に起きたスマトラ地震である。災害というのは滅多に起きないことだからデータが少ない。そのデータをより多くの地域で共有し、避難方法や救助方法を統一しようという目的で作られた。地域連携実習が作られ、SPEED という共通の災害時カルテを作成した。このような達成項目が 5 つある。これから ARCH フェーズ 2 で行われることは災害の準備と対応の能力向上に焦点をあてるのではなく、行動計画をまとめ、ASEAN 首脳宣言にそれをもりこむことである。
- ② メータオクリニックはタイとミャンマーの国境にあるメーソート地区の無料のクリニックである。そこでは病院の中を見学してもらい、メータオクリニックの創設者であるシンシアマウン医師との対談の機会を設けてくださった。そこでは無償でも多大なる命を救っている一方で無償では超えられない壁も感じた。

・最後に

今回は首都バンコクだけでなく、ミャンマーの国境へと旅立ったとても濃い 3 日間で、この経験は間違いなく私の人生に大きく、前向きな影響を与えてくれました。勉強本海外実習に際し、奨学金を支援してくださった岸本先生、奨学金申請を許可してくださった医学科教務委員会、留学を許可してくださった先生方、申請書類の準備を援助してくださった教育センターの皆様、JICA の池田様、北様、前田様、メータオクリニックの有高先生、

その他の施設の方々に心より感謝申し上げます。おかげさまで本実習の目標を達成することができ、大変有意義な勉強ができました。本実習で得た経験や知識を利用し、自分の成長および社会の向上を目標とし尽力して参ります。厚く御礼申し上げます。